

The Expert



平成27年11月10日発行

● 小児医療センター (小児科) 中山 智孝 講師 (平成2年・東邦大学卒)

小児循環器は胎児期、新生児から成人までの幅広い年齢層を担当しております

小児循環器外来は現在4名の小児循環器専門医が予約制で診療を担当しております。疾患の内訳としては、先天性心疾患 (CHD) が70%と最も多く、川崎病既往、不整脈、心筋疾患、肺高血圧症が主な対象です。乳児健診や感冒等の一般診察時に心雑音を指摘された場合は、放置することなく当院へご相談ください。心臓超音波、心電図検査などにて心雑音の原因につき精査をさせていただきます。偶然指摘された心雑音をきっかけに、治療を要するCHDが見つかることがあります。

特発性肺動脈性肺高血圧症 (旧称、原発性肺高血圧症) は小児領域では国内随一の症例数と実績を有し、日本各地から多数のご紹介を頂いております。膠原病や肝硬変などに合併する成人の肺高血圧症を当院内科から相談いただく機会も多く、血行動態評価や治療方針決定に関与しております。従来は有効な治療薬がなく予後不良な疾患群でしたが、最近では病態解明の研究が進み、有効な薬剤が次々と開発され、5年生存率は90%と予後は著しく改善しております。

この数年、国内の循環器関連学会で繰り返しテーマとして取り上げられている、成人先天性心疾患 (ACHD) について現状を紹介いたします。CHDは生まれてくる子どもの約1%に合併します。重症度はさまざまですが、内科治療の進歩や心臓外科手術成績の向上により、現在では約95%のCHD患者さんが成人に達する時代となりました。わが国のACHD患者数は40万人を超え、小児患者数を大きく上回っています。また中等症～重症例の占める割合が増加しております。当院では小児循環器医が中心となり、循環器内科や心臓外科と密接に連携してACHD患者さんの診療にあたっております。

ACHDには、小児期に診断され治療 (根治手術) 済みの症例のみならず、根治手術未到達の症例 (姑息手術のみを含む)、成人期に診断されたCHDなど多様です。心室中隔欠損症や心房中隔欠損症など単純シャント疾患で外科修復術から数十年経過した症例であっても、成人期に遺残症が顕性化、または新たに続発症が出現することがあり注意が必要です。特に遺残短絡、弁逆流が残存した症例では観血的処置や歯科治療の際に感染性心内膜炎のリスク (抗菌薬予防投与が推奨) が問題となります。しかし、進学や就職、結婚などで転居を契機に定期通院が途切れてしまう現状があります。定期検診が中断されたACHD患者さんを見かけましたら、当院受診を勧めていただくと助かります。

成人期に見つかるACHDでは心房中隔欠損症が最多で、検診等で偶然発見されることがあります。若年のうちは症状が軽微ですが、放置すると中年以降には心不全、発作性心房細動などの不整脈や奇異性脳梗塞が合併しやすいため、有意な短絡のある症例では閉鎖術の適応があります。東邦大学医療センターでは大橋病院循環器内科と連携して、2010年からAmplatzer閉鎖栓を用いた経カテーテル閉鎖術が開始され、小学生～80歳の幅広い年齢の患者さんに対して安全かつ良好な治療成績を挙げております。カテーテル治療に要する時間は麻酔・検査を含めて約3時間、入院期間は3泊4日と患者さんの負担が軽減されます。地域の先生方におかれましては、該当する患者さんがおりましたら、是非ご紹介のほどをよろしくお願いいたします。

● 診療予約

診療のご予約は、下記までご連絡下さい。
診療日・診療時間をご案内いたします。

● 診療日

中山 智孝 講師：
小児科外来初診 土曜日 午前 (第1・4週)
小児循環器外来 水曜日 午前・午後

医療機関専用電話 **パートナー**
03-3762-6616 (直通)

(受付時間 平日 8:30～17:00、土曜 8:30～14:00)
(休診日:第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10)



東邦大学医療センター大森病院
Toho University Omori Medical Center
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
03-3762-4151 (代表)
<http://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>
発行元：地域医療支援センター

The Expert



平成27年11月10日発行

● 小児医療センター (小児科) 小原 明 教授 (昭和54年・東邦大学卒)

小児医療センターは総合的な小児医療を提供しています

東邦大学医療センター大森病院には小児医療センター56床の小児病棟があります。新生児から15歳まで年間のべ約15,000件の患者さんの入院治療に、小児科、小児外科、小児腎臓科、小児心臓血管外科等複数の診療科の医師約40名があたっています。看護スタッフには2名の小児専門看護師、2名のチャイルドライフスペシャリスト (CLS) を配し総合的な小児医療を提供しています。これとは別に当院の総合母子周産期センターでは、集中治療が必要な新生児の医療を行っています。平成26年に小児内科に入院した711人の患者さん疾患を表に挙げました。一般小児疾患である感染症から難治疾患の専門的高度医療まで行っています。小児救急診療を大田区三医師会のご協力を得ながら積極的に行い年間約12,000例の患者さんを診察しています。

私の専門領域は小児の血液疾患、小児がんです。大森病院は国のがん連携拠点病院で、さらに小児は東京都小児がん診療病院に指定されており、この領域を専門とする小児科医4名と小児外科医とチームを組んで、常時10人ほどの入院患者さんの治療にあたっています。小児がん白血病、貧血や血小板減少症などの治療では多職種によるチーム医療を重視し、多数の診療科の協力を得て、専門看護師、薬剤師が活躍しています。また長期入院の子ども達にはCLS、病棟保母、訪問学級の先生の皆さんが豊かな療養環境を提供しています。

小児白血病・小児がんの治療は全国規模の臨床試験に参加し、精密に計画されたプロトコール治療を高度に管理して実行しています。私と小児科高橋浩之准教授はこの臨床試験の中心メンバーです。臨床試験では多数の抗腫瘍薬併用の計画治療、標準化された診断検査によるリスク層別化治療 (最適化治療) の有効性を検証しています。白血病の微小残存病変検出法は治療予後を予測する有用な検査で、当院では臨床試験ならびに先進医療として実施しています。私たちは東京都南部 (大田・品川) の小児血液・小児がんの中心的な施設と自負しています。

— 2014年小児科入院 711人 疾患別人数 —

呼吸器 151人	感染症 62人
呼吸器感染症 145	敗血症 16
その他 6	化膿性感染 29
循環器 178人	その他 17
川崎病 86	アレルギー・免疫 77人
肺動脈性肺高血圧症 31	気管支喘息 55
先天性心疾患 55	アナフィラキシー 15
その他 5	その他 7
血液・腫瘍 45人	内分泌・代謝 9人
急性白血病 8	糖尿病 5
脳腫瘍 7	その他 4
神経芽腫 2	消化器・肝臓 46人
その他の腫瘍 2	急性胃腸炎 20
血小板減少症 11	腸重積 11
その他の血液疾患 13	その他 15
その他 2	腎臓 43人
神経・筋疾患 56人	尿路感染症 25
てんかん 26	ネフローゼ症候群 4
その他の痙攣疾患 8	その他の腎炎腎症 12
その他 22	その他 2
膠原病 12人	事故・中毒 19人
血管性紫斑病 7	心肺停止 4
SLE 5	誤飲・外傷 7
その他 13人	被虐待 2
その他 13	その他の事故 6

● 診療予約

診療のご予約は、下記までご連絡下さい。
診療日・診療時間をご案内いたします。

医療機関専用電話 **パートナー**
03-3762-6616 (直通)

(受付時間 平日 8:30~17:00、土曜 8:30~14:00)
(休診日:第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10)

● 診療日

小原 明 教授：木曜日初診・午後
土曜日 (第2週)



東邦大学医療センター大森病院
Toho University Omori Medical Center
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
03-3762-4151 (代表)
<http://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>
発行元：地域医療支援センター